

タバコ情報とコメント(拡散自由)

2026年3月1日

Ann Epidemiol :

やはり能動喫煙と受動喫煙が乳がんリスクを有意に増加させていた
(システマティックレビューとメタアナリシス)

松崎コメント :

女性のガン（死）の最大原因の一つである乳がんは、これまでの科学文献データの集計の結果、能動喫煙ども受動喫煙でも5割増しとなっていることが報告されました。

「能動喫煙でも受動喫煙でも、あなたの乳がんリスクが1.5倍。禁煙と、家庭内喫煙をゼロにしましょう」という呼びかけが大事と考えます。s

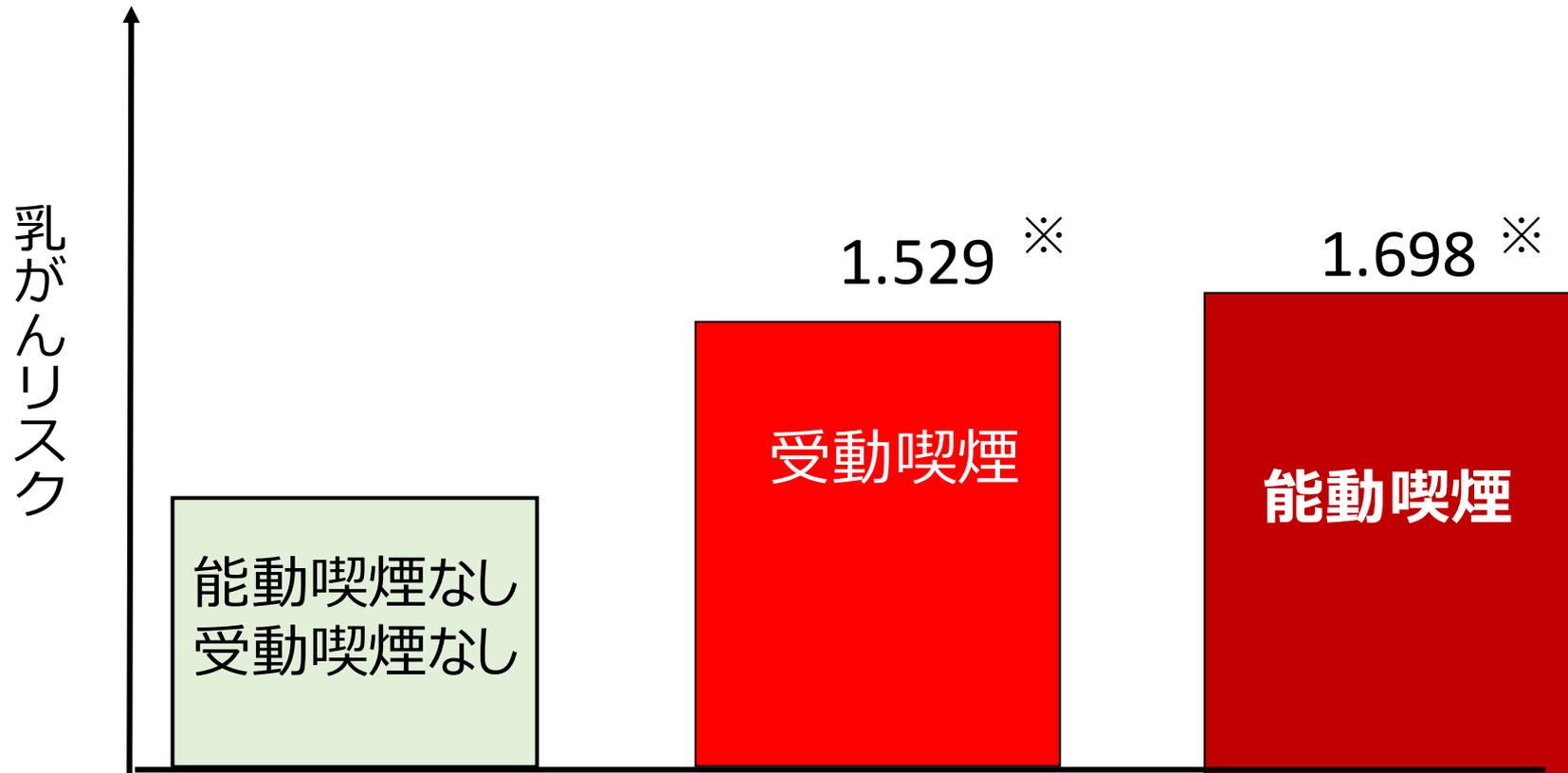
能動喫煙と受動喫煙が乳がんリスクにもたらす影響：システマティックレビューとメタアナリシス
Tsegay L, et al. **Active and passive smoking and the risk of breast cancer: An umbrella review of systematic reviews and meta-analyses.** **Ann Epidemiol.** 2026

PubMed、Scopus、Web of Scienceで開始から2024年10月24日まで体系的な文献検索。喫煙(現在、過去、受動的)と乳がんとの関連を調査した観察研究(コホート、症例対照、または横断的)のシステマティックレビューおよびメタアナリシスを含めました。

結果:1,095本の論文を特定し、そのうち8件のメタアナリシスティックレビュー(142件の独自の一次研究を含む)が対象となりました。これら142本の論文は、禁煙者、現在喫煙者、受動喫煙者(平均症例数1009人、平均対照者数10,588人)を含む6つのメタアナリシスのデータを提供しました。元喫煙に関して説得力のある証拠(クラスI)が認められ、禁煙者の相対リスク(RR)は1.13(95%CI 1.10-1.16)でした(証拠レベル I)。現在喫煙の相対リスクは1.70(95%CI 1.66-1.74)、受動喫煙の相対リスクは1.53(95%CI 1.34-1.74)でいずれも証拠レベルはIIでした。

結論:過去および現在の喫煙、ならびに受動喫煙は乳がんリスクの上昇と関連していました。過去喫煙が有意に乳がんリスクと関連していることは、喫煙が長期的に生物学的損傷をもたらしていることを示唆します。現在喫煙および受動喫煙は同等の発がん性経路を通じて発がんをもたらしていることを示唆しています。遺伝的素因や生活習慣などの交絡因子を明らかにするために、さらなる研究が必要です。これらの発見は禁煙プログラムの重要性と受動喫煙に対するより厳しい規制の必要性を強調しています

妊娠中の能動喫煙・受動喫煙も、
同じように乳がんリスクを増やす
(システマティックレビュー・メタアナリシス)



Tsegay L, et al. Active and passive smoking and the risk of breast cancer: An umbrella review of systematic reviews and meta-analyses. Ann Epidemiol. 2026